

寺崎組新聞

第百一号

発行所 寺崎組新聞社

会津でサバクイバル?

第133回組会

毎年、新聞の組会地発表を見て、さて今年はどこまで参加できるかと日程とニラメッコをしております。おおい今年も東北開催があるではないか!というほうほ喜び、家族力レンドーに華丸で強制家出を書いた。場所は白河。事前に地図で確認、何やら怪しげな点々道路?まさか、甲子林道?一昨年開通した甲子トンネルの旧道。噂では崩落・泥沼のC級林道と聞く。下見に行こうとしたが、時間が取れない。ならば、友人に聞いてみれば、「泥ドロだよ。」と、慌てて、タイヤを注文。フロント ダメロップD603、リア アイノウエゴムTR1011。リアは虎タイヤをチョイスした。酒も用意し、遠足気分ワクワクする。そんな前夜にETCを電池式に改良して、千円ワイプを使うことを思い立った。電源は箱電池006Pで可動を確認。いけるじゃん!と床に就いた。

4時に目が覚め、天気は雨模様。ありあとパッキング。ワイプするんだから、NHKのゲゲを観てからと決め込み、余裕の出発。宇宙戦艦ヤマトじゃないが3時間の光速移動。安積PAで一休みし、着ていた合羽を脱いだ。白河ICを下りて信号待ち。集合場所のローソンには、GS1000、カジバ、KTM990、アフリカツインなど総勢9台が揃っていた。そこへゴ三浦さんが合流。おおい、寺崎組も大型車が揃ったと思っただけだ。別なグループだった。(苦笑)だよ。あんまり綺麗過ぎるブルジョアオフ車、荷物も少ない。寺崎組イコール綺麗の公式は当てはまらない?綺麗は似合わない?が、自然派・ナチュラリストの名を誇りに思う、ソロツリストの集合体なのだ。ゴ三浦さんと話をしている間に組員が続々集合。コンビニで昼を食べながら、再会話が弾む。以前どこかの組会に徒歩?で参加したという方

が、お見送りに来た。KLE250(編集部注・134号須賀川の関根さんです)参加の面子は、会津の怪人河原田XRバハ、小諸の元先生KDX200、三倉XR250、吉田SX改めXT250T、山梨尾形ジェベル、アベXR650、地下鉄KTM4E、ゴ三浦DR250改、金子3号KTM450EXC、そして、組長KTM450EXC?これが何とも不思議な寺崎組製ポンコツ再生TLR200林道楽ちゃん仕様車と言うべきか?TLR200にKTMのタンクシート、XRのサイドカバーとリアフェンダー、フロントアッパーフェンダー、TLRの座れない小さいシートと荷積み難点をクリアした快適?車となつてい。計10台の怪しい?面々。

左へ再び西部林道入口がある。西部林道は2区間に分かれていて、西の区間は走りやすい林道である。お世話になる。しばらくすると二俣溪谷の二岐温泉を通る。情緒のある山奥の温泉だ。温泉直下に風力発電の看板があり林道になっている。これまたオールドフラットの林道?舗装してない道路といたところか?そこは、行き止まりになった。風車を時計回り一周して温泉まで戻り、組長が「つながらてるかな」と思っ行ってみた。組長は、地図に無い道を自らの足で検証・発見しているんだな思われる。国道118号で湯野上温泉へ、国道347号で塔のへつりを横目に会津下郷のVチェンで買出しとなった。

相変わらず、皆さんの購入量が多いのに驚く。水はテナント販売中の専務さんに頂いたもので、林道ツーの者は必ずこちらで買出しをするのだとヨイショしておいた。またもや天気がグツつき始めたので、合羽を着用して出発しようとしたら、組長のKTM4Eのキックアームの根元にクラックが発生して、キックが出来ない状態。結局、押し掛け車になってしまった。以前にも、押し掛けシートを組新聞で見たような。国道289号を白河方面に向かい、今回の核心、甲子林道へ突入した。ゲートは通行止め看板、比較的走りやすい林道だが高度を稼ぐ。甲子山(1549m)または、旭岳(1835m)の登山道を過ぎると、行き手を遮るような、小さい山を乗り越え、間も無く探石を砕いたような山の斜面に広めの空き地が現れた。今夜の天幕地である。

こと決めたなら設営が早い。毎回、驚くが、テキパキと陣を組む様子はすばらしい。「いいかやるぞ」と組長がビール片手に待っている。揃ったところでカンパイ。あれよあれよと食材が廻る。刺身が多いな?と思つたら、小諸の先生が、特売品を4パックを買っていた。今回の料理は餃子の皮にハムとチーズを挟んでフライパンで焼く手作り品なので、少々時間が掛かったが、おおい

とい言っていただき満足でした。持参の日本酒は、口に合っただろうか心配したが、朝までには無くなっていた。そんな時にポツポツと雨。これまた、素早く屋根が出来上がり、少々強い雨でも平気でした。阿部さんの駅名連呼はプチ連呼に留まり、鉄道・バス車両話、河原田さんのこと?、SX吉田さんはいつの間にか「よっちゃん」と呼ばれXT購入話、組長が尾形さんをナンパ?した時の話、地下鉄さんの歌は出なかったが、組長とゴ三浦さんのサバクイ話など、夜半過ぎまで盛り上がった。うつつら記憶に。オラは酔って朝から快晴で、山が綺麗です。やはり組長がいち早く起きており、一服中でした。朝飯をそれぞれ作り、食材の整理。悪くなる前に食う。撤収し記念撮影。この後、甲子林道の真骨頂でグダグダになるとは誰が予想したことだろう。

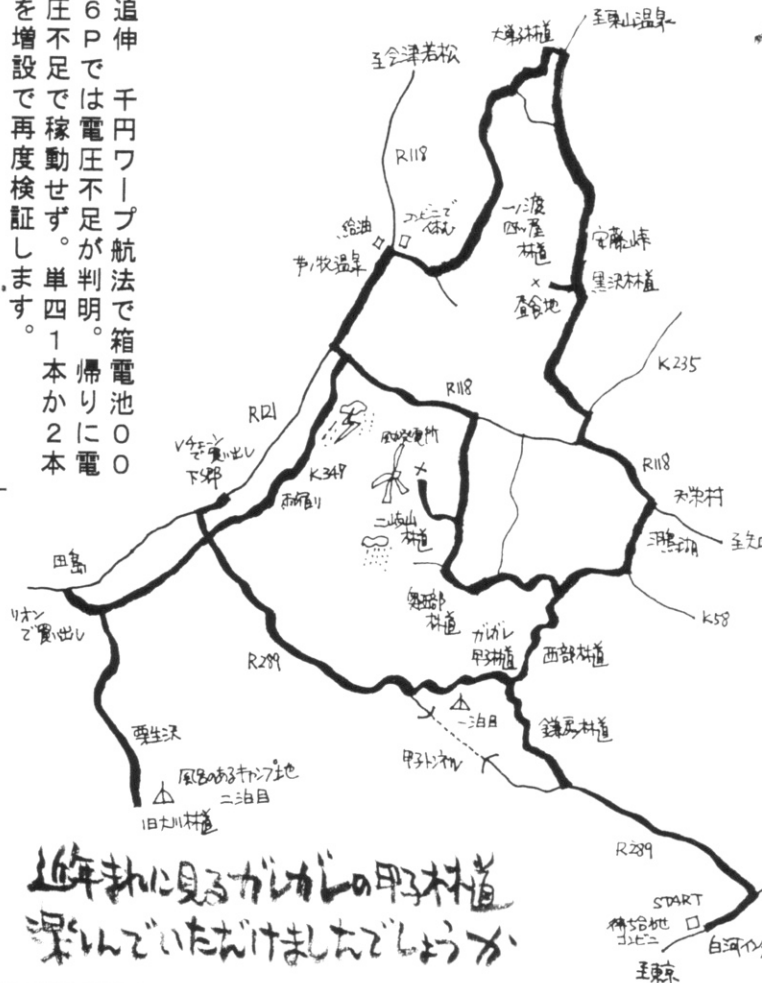
うです。(根性ある。)もう少し少しと、長い下りのステア越えを繰り返して、初日の西部林道分岐にたどり着き安心した。尾形さんは、いつもこんなところを走ってるんですか?と。阿部さんは、これまで一番大変な林道だった。ゴ三浦さんは、今回で3回目だけども、6年前はもっと走りやすかったはず。組長はその林道をジムニーで峠まで走った事があった。その中で、約8kmなんだがなあと。暑さはジャングル並?。藪で前が見えず荒廃が進み、転倒者も数人、まさかサバクイバルな甲子林道であつた。

進み、8名の食材が廻る。一部滞滞するほど、今夜もご馳走が多い。今夜のおつまみ、地下鉄さんのかつお刺身は生姜が効いて美味しかった。餃子、鳥カマ、ウインナー、豆腐納豆ダシ風など、盛り沢山。尾形さんは、昨夜から尾崎さんになつているし、アンデス尾形・ジローラ毛尾形と南米・イタリヤ系の別名で呼ばれている。次回参加の時には、何て呼ばれているだろう。そして、ハゲと白髪に髪対決は、ハゲが劣勢で白髪に軍配が上つたが、決して白髪が優勢とは思っていない。ネ!阿部ちゃん。酔って気持ちもよくなり、ポーと酒を飲み、談笑して就寝。

三日目はここで解散です。先生は、お先にと出発。組長と白河方面へ3名。山形へ連泊が2名。それぞれの旅へ出発。「また次回」とエールの交換で幕を閉じた。オラは会津若松・土湯を越えて午後早い時間に安着しました。

川の水、明るい天空、初日の山の上から2日目の河原まで、組長は天幕場をよく知っていらつしやる。日本一周の何冊目のこの林道だねとか、皆さんもよく知っている。最近の自分は、新たな林道を走って無いことに気が付いた。組会の時に初めて知る林道が多すぎる。どこに何がある。どこどこが繋がっている。どこ知らないことばかり。自分の足で走ってみなければと感した3日間でした。暑さに負けずご自愛ください。

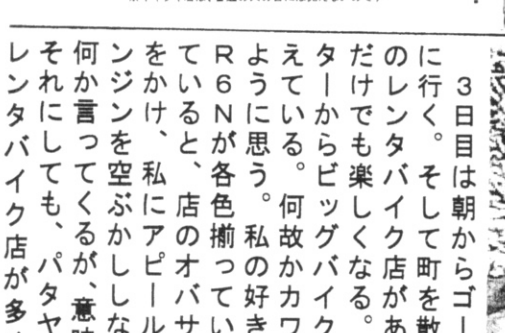
今回のコース



組会参加者の一言

追伸 千円ワープ航法で箱電池006Pでは電圧不足が判明。帰りに電圧不足で稼働せず。単四1本が2本を増設で再度検証します。

と、数年後には廃道かも？今回は難易度最高の林道と、温度最高の風呂のスピントフ野宿では、黒鴨林道で前輪がパンク。遂に「パンク病」を染まされてしまいました(汗)(ゴ三浦)



緊急海外レポート「戒厳令の夜」

朝、中部国際空港に向かう。これからどうなるのだろうと思いつつ、空港(セントレア)へ。軽く食べる。現地(バンコク)は政府側軍隊と反独裁民主戦線(タクシン元首相のデモ隊)の対立が2ヶ月も続いている。町は荒れている。どうなるのだろうか？私達、グループはまず、バンコクを避けて予定をパタヤビーチに変更することにしました。

2人のインド人が我々のテーブルに座り食べ始めた。それもフオークやナイフはあるけど、素手で食べ始めた。びっくり。素手で食べ始めた。朝食を済ませガイドさんと観光へ。世界一大きい木の寺、サンクチュアリーなどを見て色々観光を済ませ、屋敷は軽く8番ラーメンを済ませる。昼からは2時間、タイ式マッサージをしてもらったが、マッサージのオバサンが太ってて重かった。ウヘー！その後、土産にムエタイパンツを頼まれていたので、パタヤの一番大きいムエタイのジムに行く。ジムは、それはそれは美しいホテルの中にあり、それはそれはびっくり。長期滞在のため、そうやって買ってしまう。ムエタイパンツを2枚買いました。少しだけムエタイを見て、夕食のレストランへ。

今日は海見えるシーフードレストラン「ナン・ヌアル・シーフード」で、夕陽を見ながらまず乾杯。タイのシーフードを食べる。夕陽が美しく、海を見ながら色々食べる。美味しくて安い店でした。今夜は少しパタヤの夜の町を歩くことにした。すごい人の数だ。とありあえずガイドさんの勧めでゴーゴーパーに行くことにした。1人ビール1本で色々遊べるのだ、色々ね？そして2日目の夜は更けてゆく。

タイ、バンコク市内でも高級店の「ソープン」でタイ料理を食す。でも私はガイドさんに「この店は高級だからだめ」と伝えると、「大丈夫大丈夫、安くて量が多くて美味しいコースがある」とガイドさん。そのコースを食べることにした。日本円で1500円くらいで、タイの代表料理がずらり、食べきれないほどの料理の数々、む、アロワイ、アロワイ(美味しい)。食べ終わったが一日中すごい汗をかき体はベトベト。サツパリしたいとガイドさんに相談すると、先ほどのマッサージ店「有馬温泉」でアカスリ、マッサージが4階にあるというのでガイドさんに相談してもらい、安く風呂だけ入れてもらえらるようになった。4階に行くくと男の人が6人ぐらいたって、1人が2人がかりで体を洗ってもらい、大きい湯船に浸かりサツパリ。新しい帰り用の衣服に着替え、少しですが男の人達にチツプを渡し、いざスワンナプーム空港へ。空港入口で残りの友達と合流。良かった、今度の旅も色々あったけど、これはこれで、良かったのではないかと。色々な体験も出来ました。でも日本に帰ってきたら、会社や現場の人々に本気で心配された。「無事に帰ってこれた良かったですね」「ええ、まあ、まあ」と煮えきらない返事をしつつ、いかに日本で大事件として報道されていたのかを知った。ああ、これでまたタイへ行く人が減ってしまうのかもなあ。と、悲しい気持ちになったのはあるが、まあそれはそれで仕方ない。タイは熱気と微笑みの広い国だから、きつと大丈夫だろう。何があっても、何事も無かったかのように、旅人を微笑みで迎えてくれる。そして私も何事も無かったかのように、またあの地へと足を運ぶと思う。

3日目は朝からゴーカートに乗りに行く。そして町を散策。すごい数のレンタバイク店があり、見ているだけでも楽しくなる。小さいスクーターからビッグバイクまで色々揃っている。何かカワサキが多いように思う。私の好きなカワサキE6Nが各色揃っている。それを見ていると、店のオバサンがエンジンをかけ、私にアピールしてくる。エンジン音を空ぶかしながらタイ語で何か言ってくるが、意味は判らない。それにしても、パタヤビーチにはレンタバイク店が多くありびっく

最終日はバンコク。市内に入れるとのことだが、少し不安ではある。朝8時にホテルを後にする。バンコク市内までバスで約2時間。途中で検問、ドライバーがライセンスと車検証のような物を見せ、無事にパス。バンコク市内に急ぐ。市内は日曜日というところもあり、少しだけ空いてるようだ。お目当ての土産を次々と済ませていく。自分用にタイポットのCDを買う。つまりはタイの歌謡曲だ。CDショップ「B2S」は日本店に案内される。「B2S」は日本のお店、試聴機もあって買いやすい雰囲気なのだ。CDを3枚買った。そして、どうしても行きたい所、それは映画「サヨナライツカ」の撮影に使われたマンダリン・オリエンタル・バンコクホテルでカフェタイム、つまりアフタヌーンティーで優雅に過ごすこと。楽しみにしていた一つでもあり、心はワクワク。ケーキは2種類オーダーした(ヨーロツパタイプとバンコクアジアタイプ)。2種類ともとても美味しく、そのケーキの写真を何枚も撮り、その後ホテル内外をガイドさんと散策、写真を撮り。すごいホテルなのだ。それから色々土産物など買いた。午後のマッサージタイム。最終日なので、足ツボ、耳そうじが1時間くらいかな？そして全身マッサージが2時間くらい。日本円にして約3000円を切ると思う？もちろんチップも入れてはいるが、サバァイ、サバァイ。それにしても、思っていたよりバンコク市内は荒れていないようだ。市内は朝からかなりの数のボランティアの人々により、かたづけ、掃除をやっているのを車内から見る事ができた。ゴミや古タイヤをトラックに積み込み、どんどん清掃されていた。あ、良かったと思ひ、1日しかないバンコクを楽しみ、どんどん時間が過ぎてゆく。そして最後の夕食に向かう。そこは、

2010年5月26日記 95号 伊藤兄 (伊藤兄語訳 組長)

出張野宿の案内 10月9日、伊藤兄主催で行われる出張野宿。伊藤兄の名前が、希望者は伊藤兄(伊藤兄)へメールを k.hakokote@nifty.com @nifty.com へ。 伊藤兄の住所は、伊藤兄の住所を教えてください。